2024年度　委員会事業報告書

無限の好奇心ワクワク委員会
担当副理事長　加藤大晴

１．委員会開催日　（12回）
01／15　02／12　03／09　04／15　05／13　06／17　07／13　08／09　09／21　10／23
11／08　12／01

２．事　業　報　告

(1)	4月例会の担当	4月21日
(2)	JC デー（8 月例会）の担当	8月11日
(3)	日本 JC 京都会議の担当【京都】	1月18日～21日
(4)	日本 JC サマーコンファレンス担当【横浜】	7月20日～21日
(5)	防災に関する担当	通年
(6)	新入会員の拡大	通年
(7)	新入会員の育成	通年

３．委員会メンバー
石川裕之　伊藤翔太　中川喜文

４．反省点及び申し送り事項
当委員会では、子供たちがやりたいことを自由に選択できる人生を歩むための要素として「好奇心をもち続けるにはどうすればいいのか」を年間のテーマに掲げて運動を行いました。
まず、基本方針の「大人に好奇心を育むサポートの方法を理解していただき、行動する意欲を意識的にもっていただきます。」「子供たちにはワクワクする体験で好奇心を刺激し、湧き上がるポジティブな感情の動きを実感していただくことで、新たな興味を深められるようになっていただきます。」という部分を達成するために、4月例会を行いました。大人に自身の子に合わせた関わり方を理解していただくことで、自分事として捉えていただき、その場で言動を改める親の様子が見られたことから、行動する意欲を意識的にもっていただくことができました。子供たちは、熱中体験で興味を深めることができました。親子で異なる目的を達成するために、それぞれに別の企画を計画し、大人向けの手法を取った後に親子で実践する構成としたことで、親の関わりにより子供たちが興味を深め、もっとやってみたいと思うサイクルを生むことができました。子供たちが生来もっているであろう好奇心を親の関わり方により深められたことで、基本方針の設定は妥当であったと考えています。
さらに、「子供たちが好奇心を育むサイクルを繰り返し、自発的に疑問を抱いて課題を見つける力を育んでいただきます」という部分を達成するために7月公開委員会を行いました。8月例会において上記の目的を達成した上で、成果を広く発信する計画をしていましたが、連動性のない事業内容・対象者では、目的達成が不可能であると判断し、4月例会に参加していただいた親子に趣旨のみを説明し、主体性に任せる内容で公開委員会を計画しました。親自身が一緒に楽しむ姿勢を見せ、子供たちが作ったものを他の人に見てもらう機会を提供することで、さらにより良くする方法を考え、達成感を感じていただくことで、サイクルを

繰り返すことができたため、自発的に疑問を抱いて課題を見つける力を育むきっかけを提供することはできました。限られた例会の時間内で、「力を育む」といった特定の能力を身に付けることは困難ですが、親子に学びのきっかけを与えることは十分にできたと考えます。自発的に物事に取り組むことにより、自分なりの「問い」をもち、夢中になることで「問い」が深まり、達成感から新たな「問い」が生まれる一連の流れを体験していただき「好奇心のサイクル」と定義付けることができ、8 月例会の発信の厚みを増すのに寄与しました。4 月例会において、新たな好奇心が生まれる仕組みをサイクルとして定義付けて、それらを繰り返すことにより得られる効果を検証することまで想定ができていれば、公開委員会の実施は不要であったと考えます。

そして、「子どもが得た成果をこれからの時代に求められる教育の形として地域の方々に向けて発信することで、我々の想いを受け継いでいただきます」という部分を達成するために、8 月例会を行いました。地域の高校生と連携し、親子で好奇心のサイクルを回す体験をしていただいた後、専門分野の情報を取り入れるという構成は、参加者の理解を得ることに寄与したと考えるとともに、好奇心を育むことの有用性を認識していただくという目的を達成できたと考えています。また、大人の意識変革には、必要性や意味を理解していただくとともに、それを定着するための方法を具体化して自分事として捉えていただくことが重要であり、例会の中で経験と知識を結びつけられたことで親子の変化と成果を可視化し、来場された方に想いをお伝えすることができました。

年間を通して、一番身近な教育者である親自身が好奇心をもち、楽しそうに学ぶ姿を子供たちに見せることができました。この学びが、それぞれの家庭でさらなる好奇心の好循環を生み出し、子供たちの最高の人生の基盤となる歩みを進めることができたと確信します。

5．副理事長所見

本年度、「好奇心」をテーマにいただき、自立した子供たちが楽しく生きていける未来を目指しました。担当委員長は自分の家族やメンバーの家族も巻き込みながら、議案構築や事業を実施してきました。身近な人の協力を得て構築された例会は、設営側にも「楽しさ」を意識することができ、学んだことを自分自身のものにすることに寄与していたと感じています。

4 月例会では、子供たちが動画の作成を通して没頭体験をし、その過程を親が褒めることを重要視しました。例会内において完成した作品を会場内で上映し、参加者が交流できる時間や機会を設ける必要性を感じました。そうすることで、他者の視点を取り込んで、好奇心のサイクルを回すきっかけが増えることにつながったと考えます。また、実際に参加者の立場に立って事業構築をするべきであったと委員会メンバーは感じることが多かったようです。その考えは、参加者に楽しんでもらうという視点からは非常に重要ですが、意識変革団体である青年会議所は、参加者の立場になることだけで終わってはいけません。事業の目的に対して必要な要素は、私たちでコントロールするように事業構築するという視点は忘れないでほしいと感じています。

7 月の公開委員会では、内容を決定するのに時間を要し、4 月例会の際に告知することができなかったために開催の案内が直前となってしまったことで、参加していただいたのは 4 月例会に参加いただいた 27 組中 5 組の親子に留まり、思うように参加者を集めることができませんでした。連動性をもたせる事業を計画する際には、続けて参加していただけるような事業の組み立てが必要でした。

メイン事業である 8 月例会は当月審議となり、十分な準備やリハーサルを行うことができないまま実施することとなりました。特に夏休みに入ってからの学生ボランティアとのやりとりは困難を極めました。しかし、時間が無い中で我々の意図を理解し、子供たちに正面から向き合い、一生懸命に運営をしていただいたおかげで大きなトラブルがなく進行することができました。委員会メンバーをはじめとする、JC メンバーにも場当たり的なお願いをするのではなく、事前に説明を十分に行うことで主体的に行動していただけました。

年間を通して、好奇心の有用性を目に見える形でお伝えしつつ、親の意識を変えるということを掲げて活動してきました。しかしながら、親世代に新たな気づきがあったのかどうか。また、既に知っている知識であっても実践することが難しい知識があるならば、それらを克服する機会を提供できたのかどうか。その視点から振り返ると、十分にアプローチできたとは言えないと感じています。当初の考えとしては、すべての親世代に共通して、子どもに幸せになってほしいという想いが必ずあります。子育ての方針や考え方、抱えている課題は各家庭で違いがあり、すべての方に満遍なく当てはまるという形として、親の意識変革を目指しました。しかし、全体を大きく捉えすぎた抽象的な目標であったために、多様な方向からの思考を巡らせる必要があり、その結果、新たな気づきの薄い事業構成となってしまいました。さらに深掘りして、例えば「親子で一緒に楽しむことこそ、子育てを成功させる秘訣」と定義して事業を実践することに絞って計画すれば、より効果の高い運動発信ができたと感じます。

現代社会は多くの情報に溢れており、興味を引くものが分散しやすい環境にあります。その中で、子供たちが様々なことに興味をもち、自ら学び、深掘りしていくことは非常に大切なことです。子どもは家庭や社会において、知らず知らずのうちに大人の行動を真似ながら、生きる術を身につけていきます。子供たちになってほしい理想を押し付けるのではなく、自分自身が実践することや楽しむ姿勢を見せることが重要であると気付かされました。無限の好奇心とは、無限の可能性と言い換えることができます。好奇心は単なる知りたいという欲求にとどまらず、自分自身の世界を広げ、将来の目標や夢へとつなげる可能性を秘めています。本年度、子供たちが小さな興味をもち始めたことが、将来の職業や人生の道筋になることもあります。そのきっかけとなる事業を実施できたことは当委員会メンバーの財産にもなりました。

防災の担当としての役割もありました。元日に発災した能登半島地震への支援物資の調達と物資の輸送を行うことから本格的に活動が始まりました。被災地の迅速な復旧のために正確な情報の共有をすることと複数回に渡り街頭募金を行いましたが、募金活動を行う場所によっては複数の許可が必要であり、申請から許可が下りるまでに時間を要してしまい、迅速に実施できなかったことが悔やまれます。担当者が変わっても、次回以降スムーズに活動ができるように情報共有を密に行います。

最後に、大変貴重な機会を与えていただきました理事長、二人三脚で委員会運営を行なった委員長と副委員長、信頼できる委員会メンバー、支えていただいたLOMメンバーの皆様、そして携わっていただいたすべての方々のおかげをもちまして一年間の運動を終えることができました。この一年は、挑戦と成長の連続であり、様々な運動を通して地域への貢献だけでなく、「ENJOY」を与える機会を創出できたことに感謝しています。活動を通して築かれた絆は、仲間以上の深い信頼関係となり、今後の活動においても大きな力になると確信しています。これからも、「まずやってみること」を大切にし、楽しむ姿勢を見せ続けてほしいと思います。楽しさと成長を両立させることを伝えていくのが当委員会メンバーの使命だと考えます。

以上の想いを次年度につなげ、次世代を担う子供たちが未来を楽しく生きていくことができる海部津島地域のさらなる発展を期待しています。これらの経験と学びをもとに、今後も地域社会に貢献できる活動を行っていくことをお約束し、所見とさせていただきます。

６．収　　支　　決　　算

収入の部				支出の部			
予　算		決　算		予　算		決　算	
事業費	0	事業費	0	(1)	0	(1)	0
合　　計	0	合　　計	0	合　　計	0	合　　計	0